

百人一首 一 諸本いろいろ

期 昭和57年11月16日〜12月4日
於 図書館3階閲覧室

(渡谷)

百人一首、石田吉貞氏の説によれば、「百人一首」は、はじめは名が無かったようである。それ故「小倉山荘色紙形和歌」「小倉山荘色紙和歌」「嵯峨山荘色紙和歌」など、いろいろによられた。また異本に「百人秀歌」という名のついたものがあり、一般には「百人一首」とよばれ、また他の百人一首と区別するために、「小倉百人一首」とよばれている。「小倉山荘色紙形和歌」というようによばれたのは、(略)はじめ、京都の小倉山の山荘の障子にはる色紙に、この歌が書かれたからである。また「百人一首」とよばれたのは、百人の歌人の歌を一首ずつ集めたものだからである。」とある。

(1) 小倉山荘色紙和歌 百人一首 (常磐松文庫)

写本一冊、舛形列帖装、包表紙共、付三十六人歌合
奥書「右一冊 松室重親依所望 梁愚筆 寛文二曆初冬下旬
左中将 藤原為清」
外題「小倉百首 附六々 詞仙 冷泉為清卿 筆」
・外題とは、「げだい」と読み、「表題」ともい。表紙に記されている書名の
ことである。

(2) 百人一首 基筈抄 (常磐松文庫)

井上秋扇編著
版本一冊(上・中)、美濃判、絵入、北村季吟序、内題「基筈抄 百人一首増補絵抄」・内題とは「なだいなだ」と読み、外題に対して本文ならびに序目などに記された書名、特に巻頭書名を指すこともあるが、不明確である。(長沢規矩世氏) 基筈抄は、百人一首を註釋したもので、井上秋扇が祖父の遺書に基き、細川幽齋の説をも交えて註を加えていることが序に記されている。

(3) 百人一首抄 (常磐松文庫)

藤原美波留(長野美波留)編著
版本一冊、絵入、文政二(1819)自序。藤原定家の「百人一首」を註釋をし、又他のよみ歌を合せたもの。藤原美波留は、江戸の人で、大村光枝の門人、他に「徴古図録、対照假字格」等の著作がある。

(4) 百人一首燈 (常磐松文庫)

藤原成元(富士谷御杖)編著
版本二冊(上・下) 無刊記 巻首に総論として、文化元年(804)の自序がある。小倉百人一首の歌意を解明したもの。

(5) 絵本 花の宴 (常磐松文庫)

版本三冊(上・中・下)、絵入、宝暦二年(1762)京都菱屋治兵衛板
角書「女用教訓」
直接ではないが、かるたの場があるため、参考として展示しました。

※次回展示は、「徒然草」(期：12・6〜12・20)を予定しております。